

# 令和元年度 中部地方整備局事業継続力認定制度検討委員会 議事概要

日 時：令和2年1月17日（金）11:30～12:00  
場 所：本局（三の丸庁舎）3F 整備局大会議室

## 1. 開会

## 2. 主催者挨拶

## 3. 議事

（1）中部地方整備局「建設会社における災害時の事業継続力認定」  
実施要綱（案）について

①「建設会社における災害時の事業継続力認定制度実施要綱  
（案）」について内容を説明し、承認された。

②意見・質問等 別紙のとおり

（2）中部地方整備局における建設BCP認定制度について

①中部地方整備局における建設BCP認定制度について説明  
し、承認された。

②意見・質問等 別紙のとおり

（3）「建設会社における災害時の事業継続力認定評価要領（案）」  
及び「建設会社における災害時の事業継続力認定の申請に向  
けたガイドライン（案）」について

①「評価要領（案）」・「ガイドライン（案）」について説明  
し、承認された。

②意見・質問等 別紙のとおり

## 4. 閉会

以上

## 意見・質問等

議題 番号	意見・質問等	回答等
(1)	認定を取得すればいいという制度にならないよう、認定したBCPが実効力を発揮できるような制度となるよう努められたい。	今後検討する。
	BCPの作成は、官民連携して取り組んでいくような姿勢で進めていくことが大切である。例えば、勉強会や報告会等の開催など。	今後検討する。
(2)	<p>継続更新時には、実効性の向上を図るため、評価要領を改定していくことは良い。その際、以下の点についても今後検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要員、資機材について、協力会社やリース会社との平常時の連携状況</li> <li>・代替対応拠点への段取りの検討</li> </ul>	今後検討する。
	会社説明会では継続更新時についても説明し、特に事業継続計画の改善の実施や課題と対応方法については重要であることを説明すること。	了解する。
	初年度は申込みが殺到することもあることから、受付回数は1年2回程度で検討してみたらどうか	申込み状況をみて判断する。
	不適合は即座に判断するのではなく、丁寧な対応を求めていくべきである。	<p>申込み書類に疑義等あれば申し送り書を送付し、再提出を求めていくものとしている。</p> <p>項目によっては、現在、備えがないが、いつ備える予定があるなど記載すればよいこととしている。</p>

(3)	<p>想定される被害想定は、地域性もあるため、想定被害は南トラに固執しないようにするべきである。</p>	<p>想定被害は地域によって異なるものと認識している。南トラの影響が少ない地域では一般的な地震として震度6強を対象とすることを示している。また風水害についても想定被害の対象として整理してもらうこととしている</p>
	<p>BCPについては個人情報などが記載されることになるが、どのような対応を考えているか。</p>	<p>個人情報の取り扱いについては評価要領に記載しており、取り扱いに十分注意することとしている。記載について抵抗がある場合は、個人情報を黒く塗り潰し、申込みして構わないと考えている。</p>
	<p>訓練についてやり方を勉強するような機会はあるのか。</p>	<p>訓練のやり方については参考資料の「訓練マニュアル」で紹介している。</p>
	<p>インセンティブについては、作成意欲を持ってもらう意味も含めて、取り入れていくべきかと考える。</p>	<p>想定はしているが、現時点では決まっていない。</p>
	<p>災害対応時の業者間の繋がりをもっと広げ、さらに実効性のあるBCP目指すため、対象工種をどう広げていくべきなのかがポイントである。</p>	<p>今後検討する。</p>
	<p>施工中の二次災害防止については、人員交代など、労働者に目を向けたものを考えていく方がよい</p>	<p>今後検討する。</p>
	<p>訓練については訓練計画を実施することが目的ではなく、訓練で抽出された課題に対して改善策を検討し、BCPに反映していくことが重要である。また、決められた時間内にやることが訓練ではなく、如何に問題点や課題を見出すかが大切である。今後、そういったものを評価要領に記載していければよいかと考える。</p>	<p>今後検討する。</p>